

防災教育・活動の認知と家庭でのコミュニケーションについて

—南海トラフ巨大地震を想定した地震津波防災に関する研究(その2)—

正会員 ○富田羊亮* 同 池田聡志*
同 佐藤誠治** 同 小林祐司***

防災 アンケート
児童・生徒 防災教育 保護者

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、人的被害を減らすためにはハード対策だけでなく、防災意識を醸成し、災害への対応力を向上させるソフト面の対策が必要とされている。

これまでの防災教育に関連した既往研究として、此松ら⁽¹⁾は、子供から親への防災教育に関する情報伝達の重要性や、学校で行われる防災教育の手法について指摘している。

そこで本研究では、大分県佐伯市蒲江浦にある8つの小中学校に通う児童・生徒とその保護者を対象として防災意識アンケートを行い、蒲江浦住民の防災意識や、防災対策や防災教育の現状や課題、子どもと保護者との間で防災に関する情報共有がなされているのかを明らかにする。

2. アンケート調査対象地域の概要

今回アンケート調査の対象地区である蒲江地区は、南海トラフ巨大地震で津波被害が懸念される佐伯市の沿岸部集落である。蒲江地区では、防災対策として、東九州自動車道の佐伯-蒲江間のトンネル工事で出る残土の一部、約15万立方メートルを用い、旧名護屋中学校の跡地に海拔約17メートルの高台を造成するといった、ハード面の防災対策が行われている。



図1. 大分県佐伯市蒲江浦地区の小中学校

3. アンケート調査の概要

アンケートは【児童・生徒用】アンケートと、【保護者用】アンケートにわけて構成されている。このアンケートは、蒲江地区の防災意識と防災対策の現状と課題を把握することを目的としている。

4. アンケート調査項目

本論では紙幅の都合上、【保護者用】の④、⑤の設問を中心に、学校・地域の防災の取り組みと家庭の防災対策の相互影響について報告する。

表1. アンケートの調査項目

【児童・生徒用】	【保護者用】
①学年や性別など回答者属性	①年齢・性別・居住地など回答者属性
②災害に対するイメージ	②災害に対するイメージ
③地震が発生した際の行動	③地震が発生した際の行動
	④家庭の防災対策
	⑤防災における学校・地域との関わり

5. アンケート調査の結果(一部)

本調査平成24年11月8日から平成24年11月16日を調査期間としてアンケートを配布した。小中学校ごとの配布・回収部数と回収率を表2に示す。

表2. 各学校の配布・回収部数と回収率

No.	学校名	配布部数	回収部数	回収率
1	上入津小学校	56	55	98.2%
2	楠本小学校	8	8	100.0%
3	西浦小学校	36	35	97.2%
4	河内小学校	24	20	83.3%
5	蒲江小学校	88	82	93.1%
6	名護屋小学校	26	24	92.3%
7	名護屋小森崎分校	13	12	92.3%
8	蒲江湘南中学校	208	181	87.0%
	全体	459	417	90.8%

(1) 防災における学校との関わり方

防災における家庭と学校の関わり方については、図2をみると、学校での防災教育について「子どもから聞かない」と答えた家庭が4割を超えている。図3では、学校で行っている防災教育について「知らない」と答えた家庭が4割近くである。このことから学校での防災教育が家庭であまり共有されていないといえる。

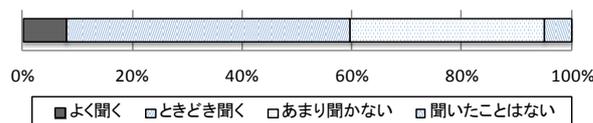


図2. 子どもから防災教育などについて聞くか?

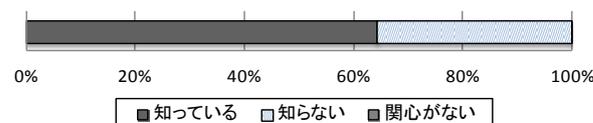


図3. 学校が行っている防災教育の認知

(2) 防災における地域との関わり方

防災における家庭と地域の関わり方については、図4をみると、地域の防災活動について「知らない」「関心がない」と回答した家庭が4割を超えている。図5では、地域で行っている防災活動へ「あまり参加しない」「参加したことはない」と答えた家庭が5割を超えている。

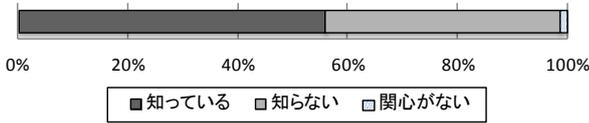


図4. 地域で行っている防災活動の認知

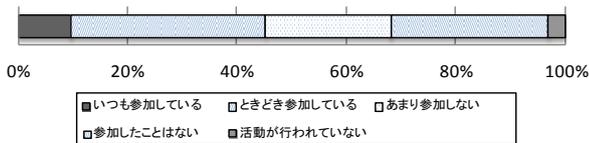


図5. 地域で行っている防災活動への参加状況

6. 学校・地域の取り組みが家庭のコミュニケーションに与える影響

ここでは学校や地域の防災の取り組みの認知状況が、家庭のコミュニケーションへ影響が認められるかどうかについて調べた。方法として、クロス集計データに対して、カイ二乗検定を行い有意差が認められるかどうかの検証を行った。検定結果の表現方法について表3に示す。

表3. 検定結果の表現方法

		回答数が有意に多い	回答数が有意に少ない
項目間の影響がある	α (有意水準)が5%で有意である	判定:[*]	判定:[/]
項目間の著しい影響がある	α (有意水準)が1%で有意である	判定:[**]	判定:[//]

(1) 学校別防災教育の認知状況

学校別の防災教育の認知状況について、カイ二乗検定を行った結果を表4に示す。

表4. 学校別の防災教育の認知状況

学校名	防災教育を知っているか？			合計
	知っている	知らない	関心がない	
上入津小学校	43 割合 81.1% 判定 **	10 18.9% [/]	0 0.0% []	53
楠本小学校	6 割合 75.0% 判定 []	2 25.0% [/]	0 0.0% []	8
西浦小学校	25 割合 71.4% 判定 []	10 28.6% [/]	0 0.0% []	35
河内小学校	19 割合 95.0% 判定 **	1 5.0% [/]	0 0.0% []	20
蒲江小学校	64 割合 80.0% 判定 **	16 20.0% [/]	0 0.0% []	80
名護屋小学校	18 割合 90.0% 判定 *	2 10.0% [/]	0 0.0% []	20
名護屋小学校 森崎分校	11 割合 91.7% 判定 *	1 8.3% [/]	0 0.0% []	12
蒲江湘南中学校	74 割合 42.0% 判定 [/]	101 57.4% **	1 0.6% []	176
全体	260	143	1	404

表5. 防災教育の認知状況と家庭での防災に関する会話量の関連性

学校での防災教育を知っているか？	防災について話すか				合計
	よく話す	ときどき話す	あまり話さない	話したことはない	
知っている	20 割合 7.7% 判定 []	182 70.3% **	53 20.5% [/]	4 1.5% []	259
知らない	7 割合 5.0% 判定 []	74 52.5% [/]	52 36.9% **	8 5.7% [*]	141
関心がない	0 割合 0.0% 判定 []	0 0.0% []	1 100.0% []	0 0.0% []	1
全体	27	256	106	12	401

表6. 地域の防災活動の認知状況と家庭での防災に関する会話頻度の関連性

地域の防災の取り組みを知っているか？	防災について話すか				合計
	よく話す	ときどき話す	あまり話さない	話したことはない	
知っている	15 割合 6.8% 判定 []	152 68.5% [*]	50 22.5% [/]	5 2.3% []	222
知らない	11 割合 6.5% 判定 []	97 57.1% [/]	55 32.4% [*]	7 4.1% []	170
関心がない	1 割合 20.0% 判定 []	4 80.0% []	0 0.0% []	0 0.0% []	5
全体	27	253	105	12	397

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 教授・工学博士

*** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 准教授・博士 (工学)

* Graduate Student, Oita Univ.

** Professor, Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng.

*** Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr. Eng.